

高齢者の“自立”をささえ “あんしん”を共有する



地域包括ケア対応型
生活支援・見守りセンサー

iC Care Eye

ケア アイ

ビジネスモデル特許出願中



高齢者宅の“いま”の状態を共有します

宅内に設置した「CareEye」センサーでご家族は、設置先である高齢者宅内の“いま”の状態を共有できます。

温度・湿度・照度など高齢者宅の生活環境や運動量による日常生活の様子がスマートフォンなどでリアルタイムに確認が可能。異常時には、メールやアプリによるプッシュ通知でお知らせします。

蓄積データを活用し“これから”をお知らせします

センサー等で取得した情報を機械学習やAI（人工知能）を活用して解析し、介護事業で蓄積したノウハウや傾向を組み合わせ、高齢者の“これから”を想定し、お知らせします。

個々の高齢者にあった介護サービスや福祉用具の利用などを紹介し、ご家族の負担を軽減します。

CareEye モニター画面

必要な情報を、分かりやすく、シンプルに。ご家族等の介護者にお伝えします。



パソコンやスマートフォン、タブレット端末で確認できます。



複数の利用者様・お部屋をモニターできます。



利用者様の状況をアイコンでわかりやすく表示します。



異常値を検出した場合は、アプリやメールでお知らせします。



表示項目や期間を設定し、過去データも自由に閲覧できます。



見やすくセンサー数値をグラフィカルに表示します。

利用者様の声

実家でひとり暮らしの父が心配で導入しました。電話で「大丈夫か？」などと確認すると煩がられますが、この「CareEye」なら、起床・就寝や室内温度などの生活環境をいつでも確認できるので安心してます。

離れて暮らすお父様のために導入したご家族のAさん



在宅介護サービスの利用者様が使用しており、ご家族の同意を得て介護事業所でもモニターさせていただいています。「CareEye」があると生活時間や環境の履歴が目で見わかるので、普段と違いがあるときは、「何かありましたか？」と声掛けができるようになりました。

在宅介護事業所で活用するヘルパーのBさん



最近、日常生活に何となく不安があるので導入し、離れて暮らす子供とお世話になっている介護事業所さんにモニターしてもらおうようにしました。よくあるカメラだと、「見られている」感じがしますが、この「CareEye」ならそういったことを気にせず、見守られている安心感があります。

独居のご自宅に導入した高齢者のCさん



“いま”を知ることが自立支援の第一歩です

老化や認知症の初期段階はほんの僅かな変化から始まり、ご家族はもちろん、本人でさえそこに気づくのは困難です。

「CareEye」でその“いま”をキャッチして、ご本人もご家族も納得感がありバランスの取れた“自立”と“支援”の環境構築をサポートします。

“これから”を予測することで事前準備が容易になります

認知症の発症などにより、ある日突然対応を迫られると、選択肢は狭まり、費用は増加します。

「CareEye」からの通知やレポートにより、事前準備をある程度想定しておくことで、ゆとりを持って個々の状態や環境にふさわしい選択が可能となります。

CareEye 製品仕様

外形寸法	(H)9.5cm x (W)10.8cm x (D)3.5cm	本体重量	125g	測定範囲	人感センサー半径5m (12畳程度)
ポート	LAN (RJ-45型)	電源	100V (ACアダプタ付属)	消費電力	1.4w (24円/月)

地域包括ケア対応型
生活支援・見守りセンサー

Care Eye
ケア アイ

ビジネスモデル特許出願中

